

報告事項マ

令和元年度いじめ・不登校対策本部会議について

令和元年度いじめ・不登校対策本部会議について、別紙のとおり報告します。

令和2年3月20日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

令和元年度いじめ・不登校対策本部会議について

令和2年3月20日
いじめ・不登校総合対策センター

いじめの問題、不登校への対応・未然防止に向けた対策について、県教育委員会関係課等をあげて取り組むため「いじめ・不登校対策本部会議」を以下のとおり開催し、「不登校支援のための背景把握シート」の結果をもとに今後の不登校対策についての協議を行いましたので報告します。

- 1 日時 令和2年2月19日（水）午前10時から11時30分まで
- 2 場所 鳥取県庁第2庁舎 第32会議室
- 3 出席者 教育長、教育次長、関係課長等（東・中・西部各教育局、教育総務課、教育人材開発課、教育センター、小中学校課、特別支援教育課、高等学校課、社会教育課、人権教育課、体育保健課、いじめ・不登校総合対策センター）
- 4 主な内容
 - (1) 鳥取県の不登校支援の考え方について
 - ・不登校児童生徒への支援は、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、社会的に自立することを目指す必要がある。
 - ・学校の果たす役割は極めて大きく、学校教育の一層の充実を図るための取組が重要である。
 - ・学校は個々の児童生徒に応じたきめ細やかな支援策を策定することやその環境づくり、学校教育になじめない児童生徒について学校としてどのように受け入れていくかを検討し、なじめない要因の解消に努める必要がある。
 - ・不登校の要因・背景によっては家庭の状況を正確に把握した上で適切な支援や働きかけを行う必要があること、保護者への支援等、保護者が気軽に相談できる体制を整えることが重要である。
 - (2) 「不登校支援のための背景把握シート」の調査結果について
 - ・不登校と「本人の困り感」の関連が強い。
 - ・「学校環境」の中では「学業不振」の割合が高く、関連する「本人の困り感」の中の「学習（読み・計算等）への不得意さ」の割合も高い。
 - ・「学校環境」の中では「友人関係」の割合が2番目に高く、関連する「本人の困り感」の中の「対人関係やコミュニケーションからの困り感」の割合も高い。
 - ・「家庭環境」の中の「親子関係の困り感」、「本人の困り感」の中の「情緒の不安定さ」の割合も高い。
 - (3) これまでの取組及び調査結果から考えられる課題
 - ・学校・教育委員会における取組の課題：多様性に応じた個別支援の難しさ・不十分さ
 - ・家庭・保護者への支援の課題：保護者の困り感をサポートする体制が整っていない
 - (4) 不登校対策に係る今後の方向性と具体的取組について
 - ◆不登校支援は、児童生徒理解に基づいた支援の充実が柱となる
 - 「不登校の理解と支援のための教職員研修資料『あした、また学校でⅢ』」の改訂
 - 保護者のための不登校相談窓口の設置
 - 教職員のための不登校相談窓口の設置
 - 保護者と不登校支援機関の協働による研修会及び情報交換等の取組
 - 校内サポート教室の設置（試行的取組、県内3中学校）
 - (5) 意見
 - ・校内サポート教室は学校体制で進めることが大切である。
 - ・保護者の不安等への支援が必要であることから、保護者に届けるべき情報の周知や発信の仕方の工夫が必要である。
 - ・児童生徒理解及びそれに基づく支援等について、これまでに策定された手引き等の内容が各学校で実践されるための取組の工夫が必要である。
- 5 まとめ
 - ・今の取組を教育委員会各課・センターが協働体制で進めていく必要がある。
 - ・教員の指導力と併せて、教員がアンテナを高くし、子どもの状況を見取る力が求められる。
 - ・「一番困っているのは子ども」という視点で今の対応からもう一步踏み込んだ学校や家庭へのアプローチが必要である。